施工説明書

INAX

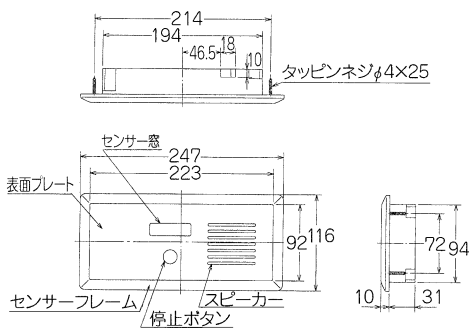
トイレ用擬音装置

KS-612（パーティション用）
KS-613（タイル壁用）

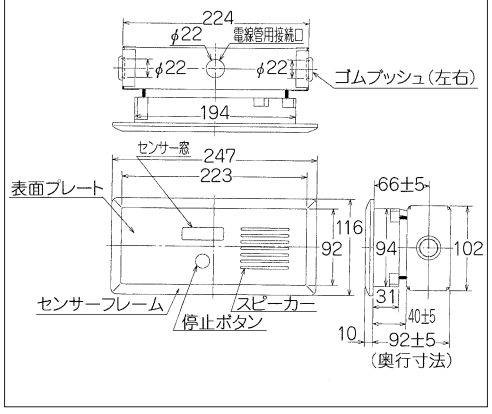
商品の機能が100%発揮されるよう、本説明書の内容を十分ご理解のうえ正しく施工してください。
なお施工完了後、この施工説明書を同梱の「ご愛用フォルダー」に入れてお客さまにお渡しください。

●商品図

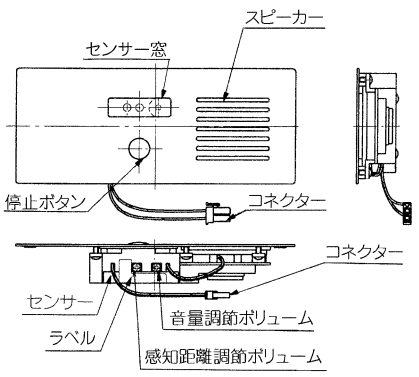
KS-612



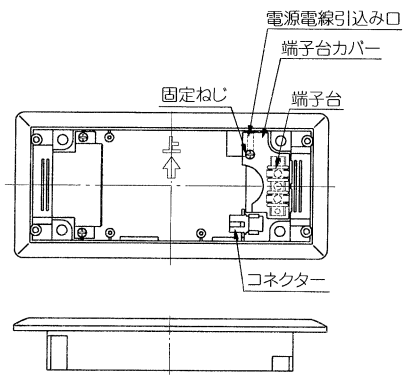
KS-613



表面プレート（KS-612, -613共通）



センサーフレーム（KS-612, -613共通）

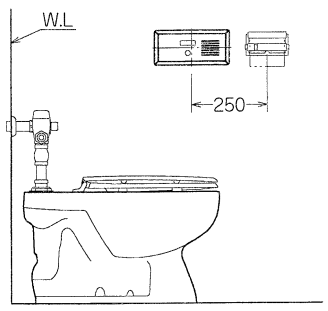


●仕　様

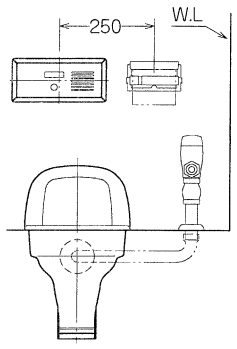
品番	KS-612（パーティション用）		
	KS-613（タイル壁用）		
寸法	機能部	外　形	247（横）×116（縦）×41（奥行）
		埋込部	194（横）× 94（縦）×31（奥行）
	埋込ボックス		225（横）×102（縦）×52（奥行）
材質	ステンレス［フレーム部：ABS樹脂（クロムメッキ）］		
電源電圧	AC100V　50/60Hz［消費電力：1W］		
使用周囲温度範囲	0℃～40℃		
操作方法	非接触スイッチ式［音停止押ボタン付］		
感知距離	約50㎜［約40～100㎜に調節可能］		
発生音	音声合成による流水音		
音声発生時間	約25秒/回［音声発生中に再操作で延長可能］		
音量	90dB(A)［45～95dB(A)に調節可能］		
残音表示	LED点滅		

●施工完了図

洋式トイレ施工例



和式トイレ施工例



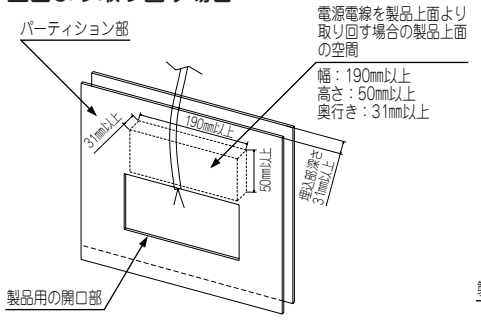
●施工前のご注意

●パーティションに取付けの場合は、あらかじめ加工が必要なため、次の確認をしてください。
- 埋込部深さが31㎜以上確保できること。（製品の取付けに必要な空間）
- 電気工事は必ず電気工事店に依頼してください。
- 電源電線は必ず軟銅より線（2.0㎟）又は単線（φ1.6㎜）を使用してください。
- 製品の取付空間とは別に、配線や結線が安全にできる空間を確保すること。（電源配線の取り回しに合わせてください。）

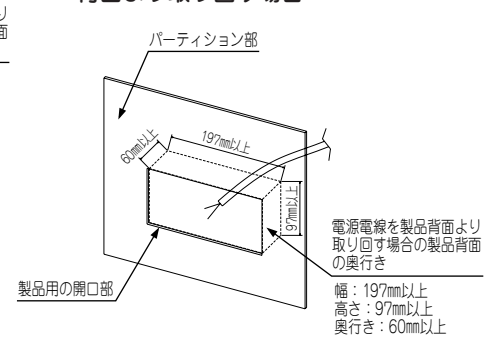
		製品上面より取り回す場合	製品背面より取り回す場合
必要空間	幅	190㎜以上	197㎜以上
	高　さ	50㎜以上	97㎜以上
	奥行き	31㎜以上	60㎜以上

●パーティションの中に電源電線（現場手配）を通せること。

上面より取り回す場合

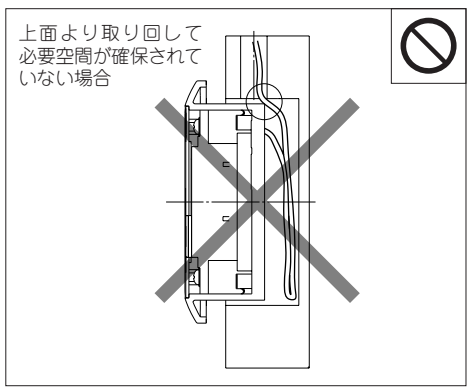


背面より取り回す場合



⚠警　告

製品上面より取り回す場合、上記の必要空間が確保できないと、図の様に配線を挟込み、被覆が損傷し漏電する恐れがあります。



●万一の際の危険防止のため、電源の一次側に、高感度高速形漏電遮断器（定格感度電流15mA以下）を設置してください。

●本品は赤外線センサーを使用しています。他の赤外線装置が近くにありますと誤作動を起こすことがありますので、十分ご注意のうえ設置位置をお決めください。

●赤外線センサーに対向する位置に、鏡、ステンレス板等、光の反射しやすい物を置かないでください。

注意 ●誤作動を起こす恐れがあります。

●赤外線センサーの感知範囲（約50㎜）には障害物が入らないようにしてください。
特にアクセサリーバーや、開放時のドア等を感知しない位置に設置してください。

注意 ●誤作動を起こす恐れがあります。

●施工完了図を参考に、紙巻器との位置関係に注意して設置してください。

注意 ●紙巻器の上側だと紙切り板を、下側だとトイレットペーパー垂れ下がりを感知する恐れがあります。

●赤外線センサーは直射日光のあたらない位置に設置してください。
※直射日光下では感知範囲が短くなります。

●大便器自動洗浄システム（OK-1STA, -1STB, -1STC, -1SPA, -1SPB, -1SPC）と併設する場合は裏面の「大便器自動洗浄システムと併設する場合のご注意」の内容に注意して施工してください。

株式会社 INAX

●商品・施工方法についてのお問い合わせ
お客さま相談センター　商品相談窓口
ナビダイヤル **TEL 0570-017173**

受付時間　平日　9:00～18:00
土日・祝日10:00～18:00
（年末年始、夏期休暇は除く）

※ナビダイヤルは、PHS・IP電話などでご利用になれない場合があります。
TEL 0562-31-0793 をご利用ください。

●安全上のご注意

●施工前に､この「安全上の注意」をよくお読みのうえ、正しく施工してください。
●ここに示した注意事項は､状況によって重大な結果に結び付く可能性があります。
いずれも、安全に関する重要な内容を記載していますので､必ず守ってください。
●施工完了後、正常に作動することを確認してください。
●この施工説明書はお客さまで保管頂くよう依頼してください。

用語の説明

警告……取扱いを誤った場合に、使用者が死亡または重傷を負う危険な状態が発生することが想定されます。

注意……取扱いを誤った場合に、使用者が軽傷を負うかまたは物的損害のみが発生する危険な状態が生じることが想定されます。

⚠警　告

修理技術者以外の人は、絶対に分解したり修理・改造は行わないでください。
※発火したり、異常作動してケガをすることがあります。

水をかけないでください。
※ショート・感電の恐れがあります。

⚠注　意

表面に水滴を生じるような湿気の多い場所では、使用しないでください。
※火災・感電の原因となります。

電気配線工事は、必ず資格を持った電気工事士が行ってください。
※ショート・感電の恐れがあります。

交流100V以外では使用しないでください。
※火災・感電の原因となります。

万一の際の危険防止のため、電源の一次側に、高感度高速形漏電遮断器（定格感度電流15mA以下）を設置してください。
※故障や漏電のときに感電する恐れがあります。

●施工方法

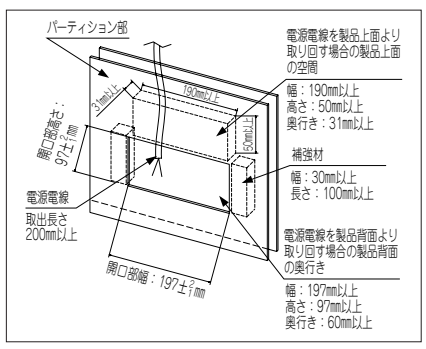
●パーティションへの施工方法（KS-612）

※大便器自動洗浄システム（OK-1STA, -1STB, -1STC, -1SPA, -1SPB, -1SPC）と併設する場合は裏面の「大便器自動洗浄システムと併設する場合のご注意」の内容に注意して施工してください。

1. 取付壁の加工

(1)取付位置に開口部を設けます。

注意	●パーティション内部には、電源電線の取り回しに合わせて製品上面、または背面に配線や結線部を収めるための十分な空間を確保してください。これらの空間が確保できていない場合、電源電線を製品で挟込み、被覆が損傷し漏電する恐れがあります。



(2)電源電線を製品上面方向、または背面方向より取り回します。

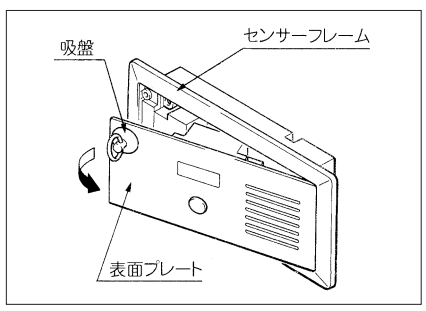
注意	●電源電線は被覆の損傷のないことを確認してください。 ●開口部内に、他の配線（電源電線等）が通っている場合は、配線被覆に損傷がないことを確認してください。

(3)センサーフレーム固定用に、補強材を入れます。

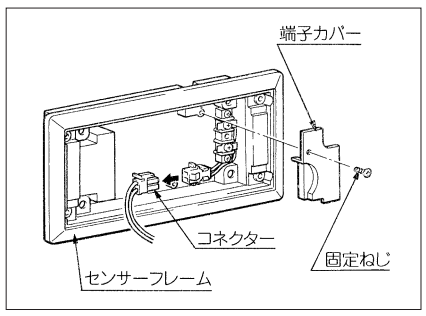
注意	●製品上面、背面方向には補強材等、電源電線の取り回し、収納の障害となるものを入れないでください。

2. 装置本体の準備

(1)表面プレートを付属の吸盤を使用して取り外します。
吸盤は表面プレートの隅に吸着させますと取外しが容易です。



(2)コネクターを外し表面プレートとセンサーフレームを分離します。
(3)端子台カバーの固定ねじを外し、センサーフレームから端子台カバーを外します。

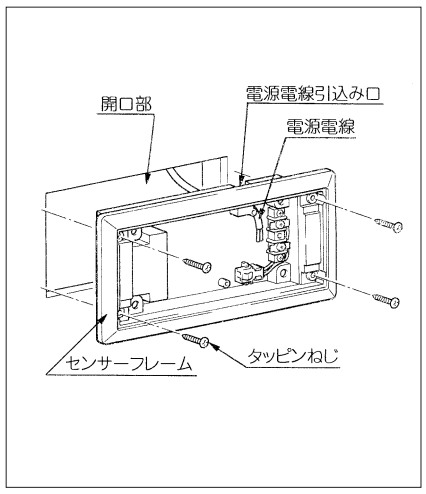


3. センサーフレームの取付け

(1)開口部内の電源電線をセンサーフレームの裏から電源電線引込み口より引き込みます。
(2)センサーフレームを開口部にはめ込み、付属のタッピンねじでパーティションに固定します。

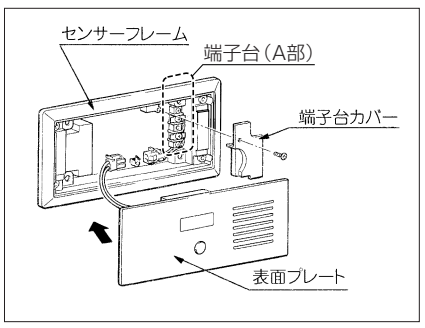
注意	●ねじはセンサーフレームがずれない程度に締めてください。 締付けが強すぎると破損の恐れがあります。

警告	●木ねじが電源電線や信号ケーブルに接触しないよう注意してください。感電する恐れがあります。



4. 配線の接続

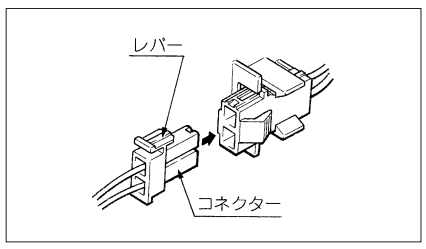
(1)電源電線をセンサーフレームの端子台（A部）に接続します。
(2)端子台カバーをセンサーフレームに固定ねじで取り付けます。



●配線の加工と接続（詳細）

	単線の場合	より線の場合
	φ1.6㎜	2.0㎟
①配線の加工	約15mm 被覆をむき、右巻きに3/4回転以上1回転以下に曲げます。	端子の取付け <Y型端子> <R型端子> 被覆をむき、端子を取り付けます。
②端子台への接続（A部詳細） 図の様に取り付け、ねじで配線を固定します。		

(3)コネクターを接続し表面プレートをセンサーフレームにはめます。
※コネクターはレバーを上にして差し込んでください。
※表面プレートはセンサーフレームのマグネットで固定されます。



●湿式タイル壁への施工方法（KS-613）

※大便器自動洗浄システム（OK-1STA, -1STB, -1STC, -1SPA, -1SPB, -1SPC）と併設する場合は裏面の「大便器自動洗浄システムと併設する場合のご注意」の内容に注意して施工してください。

1. 下地壁の準備

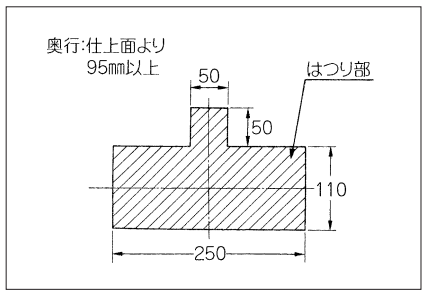
商品図を参考に電線管用接続口に合わせて、電線管を施工し電源電線を通しておきます。
※電線管はねじなし電線管E19を現場手配してください。

2. 取付位置の墨出し

下地壁に取付位置を示す中心線の墨出しをし、はつり部を決めます。

3. 下地壁のはつり

墨出しした寸法に合わせて下地壁をはつります。
奥行は仕上面より95㎜以上必要です。

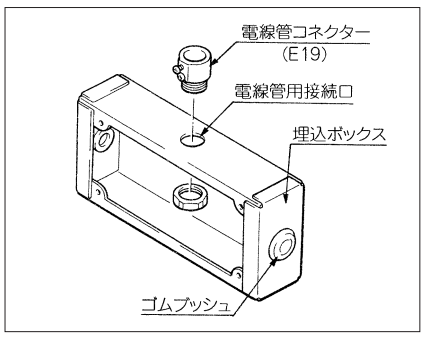


4. 電線管コネクターの取付け

埋込ボックスの上部の電線管用接続口に電線管コネクターを取り付けます。

※電線管コネクターは、E19を現場手配してください。

※連立して設置させる場合、埋込ボックスの左右の穴にはめてあるゴムブッシュを外して使用してください。



5. 埋込ボックスの仮固定

※大便器自動洗浄システム(OK-1STA, -1STB, -1STC, -1SPA, -1SPB, -1SPC)と併設する場合は裏面の「大便器自動洗浄システムと併設する場合のご注意」の内容に注意して施工してください。

埋込ボックスを木材やモルタル等で仮固定します。

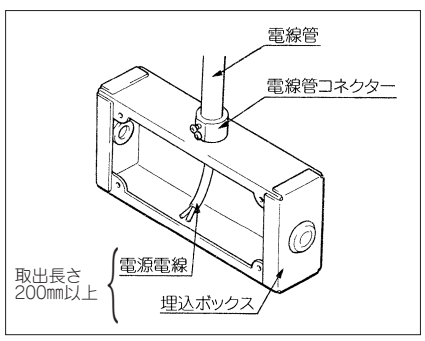
※埋込ボックスの位置合わせを必ず行ってください。

6. 電源電線の引込み

⑴電線管と電線管コネクターを接続します。

※電線管コネクターは、E19を現場手配してください。

⑵電源電線を埋込ボックスの中へ引き込みます。

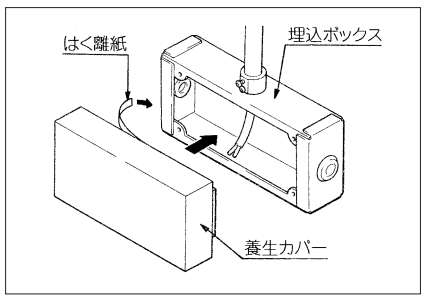


7. 養生カバーの取付けおよび下地壁の埋戻し

※大便器自動洗浄システム(OK-1STA, -1STB, -1STC, -1SPA, -1SPB, -1SPC)と併設する場合は裏面の「大便器自動洗浄システムと併設する場合のご注意」の内容に注意して施工してください。

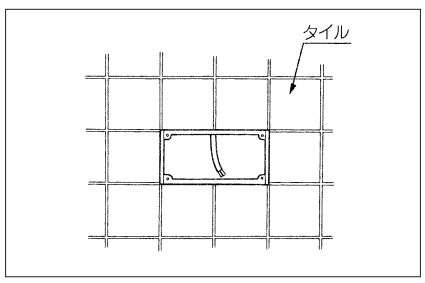
⑴付属の養生カバーのはく離紙をはがして埋込ボックス開口部に養生カバーを張り付けます。

⑵埋込ボックスの周囲をモルタルで埋め戻します。



8. タイル張り

周囲にタイルを張ります。

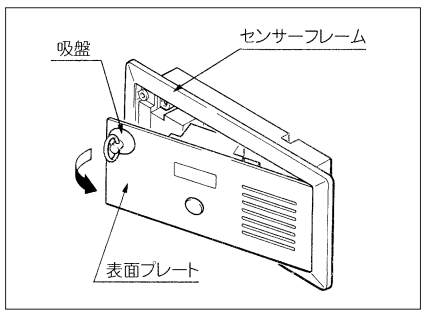


9. 養生カバーの取外し

養生カバーを取り外します。

10.装置本体の準備

⑴表面プレートを付属の吸盤を使用して取り外します。
吸盤は表面プレートの隅に吸着させますと取外しが容易です。



⑵コネクターを外し表面プレートとセンサーフレームを分離します。

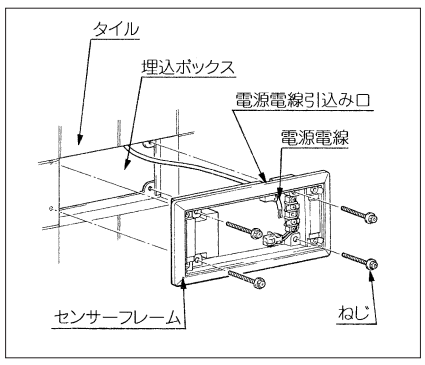
⑶端子台カバーの固定ねじを外し、センサーフレームから端子台カバーを外します。

11.センサーフレームの取付け

⑴センサーフレーム背面の電源電線引込み口より埋込ボックス内の電源電線を引き込みます。

⑵センサーフレームを付属のM4×L50ねじで埋込ボックスに固定します。

注意	●ねじはセンサーフレームがずれない程度に締めてください。 締付けが強すぎると破損の恐れがあります。



12.配線の接続

「パーティションへの施工方法（KS-612）の 4.配線の接続」を参照して配線の接続を行ってください。

●乾式タイル壁への施工方法(KS-613)

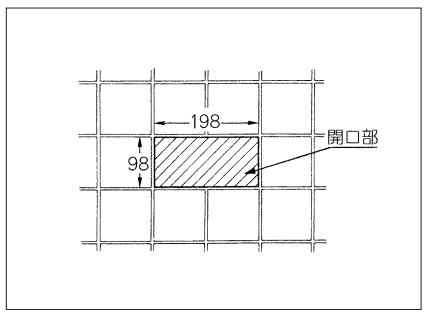
※施工のために奥行寸法として90㎜必要です。

※大便器自動洗浄システム(OK-1STA, -1STB, -1STC, -1SPA, -1SPB, -1SPC)と併設する場合は「大便器自動洗浄システムと併設する場合のご注意」の内容に注意して施工してください。

1. 取付壁・フレームの加工

⑴取付位置の横に埋込ボックス固定用の軽量間柱をフレームを利用し固定します。

⑵取付位置に198(W)×98(H)(100角タイル2枚分)の開口部を設けます。

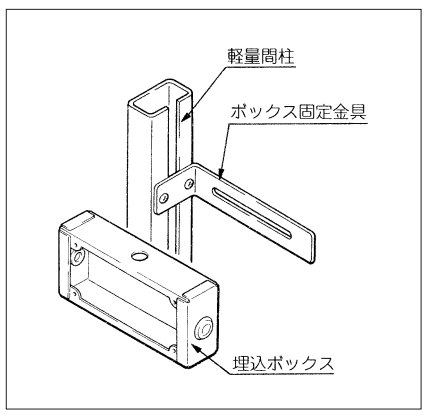


2. 埋込ボックスの取付け

※大便器自動洗浄システム(OK-1STA, -1STB, -1STC, -1SPA, -1SPB, -1SPC)と併設する場合は「大便器自動洗浄システムと併設する場合のご注意」の内容に注意して施工してください。

市販のボックス固定金具(現場手配)等を利用し、軽量間柱に埋込ボックスを固定します。

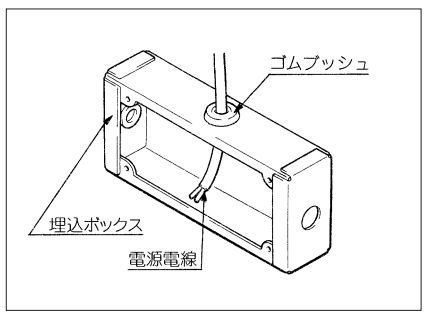
※埋込ボックスは仕上壁の開口部と位置が合うようによく位置決めしてから固定してください。



3. 電源電線の引出し

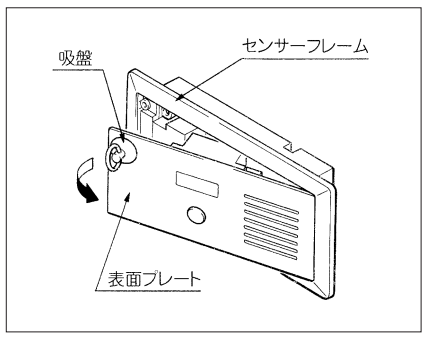
電源電線を埋込ボックス内に引き出します。

※ゴムブッシュに穴をあけて引き出してください。
ゴムブッシュは埋込ボックスの左右に付いているものを使用してください。



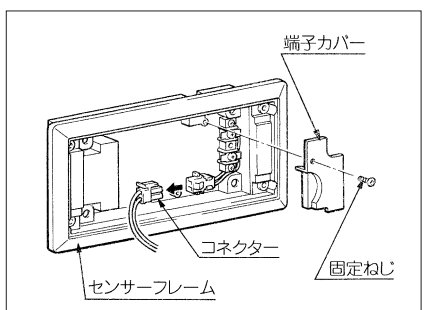
4. 装置本体の準備

⑴表面プレートを付属の吸盤を使用して取り外します。
吸盤は表面プレートの隅に吸着させますと取外しが容易です。



⑵コネクターを外し表面プレートとセンサーフレームを分離します。

⑶端子台カバーの固定ねじを外し、センサーフレームから端子台カバーを外します。

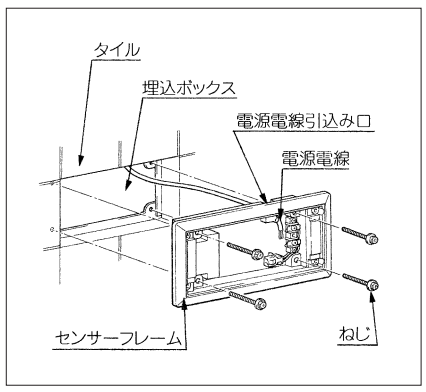


5. センサーフレームの取付け

⑴センサーフレーム背面の電源電線引込み口より埋込みボックス内の電源電線を引き込みます。

⑵センサーフレームを付属のM4×L50ねじで埋込ボックスに固定します。

※ねじはセンサーフレームがずれない程度に締めてください。
締付けが強すぎると破損の恐れがあります。



警告	●木ねじが電源電線や信号ケーブルに接触しないよう注意してください。感電する恐れがあります。

6. 配線の接続

「パーティションへの施工方法（KS-612）の 4.配線の接続」を参照して配線の接続を行ってください。

●大便器自動洗浄システムと併設する場合のご注意
（OK-1STA, -1STB, -1STC, -1SPA, -1SPB, -1SPC）

●取付・下地壁の準備

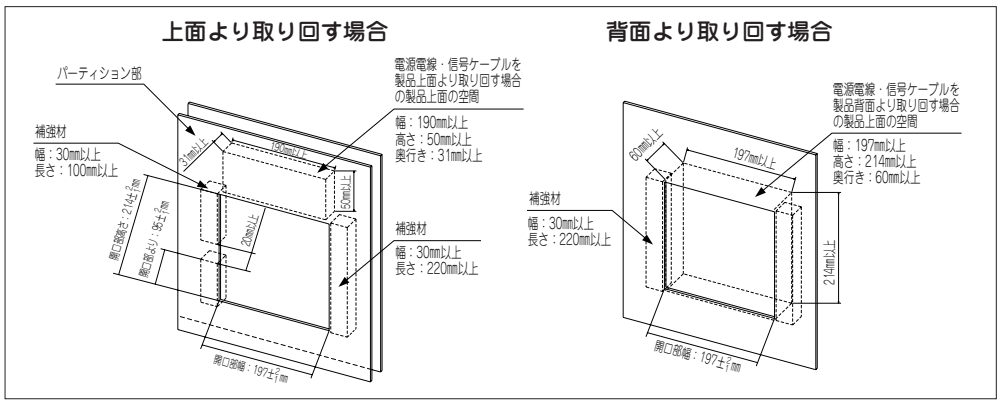
[パーティションへ施工する場合]

(1)取付位置に開口部を設けます。

注意	●パーティション内部には、電源電線の取り回しに合わせて製品上面、または背面に配線や結線部を収めるための十分な空間を確保してください。これらの空間が確保できていない場合、電源電線を製品で挟込み、被覆が損傷し漏電する恐れがあります。

(2)センサーフレーム固定用に、補強材を入れます。

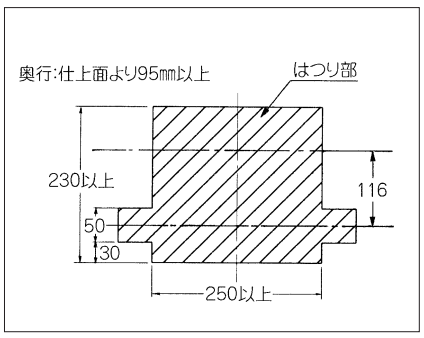
注意	●製品上面、背面方向には補強材等、電源電線の取り回し、収納の障害となるものを入れないでください。



[湿式タイル壁へ施工する場合]

(1)取付位置の墨出し
下地壁に取付位置を示す中心線の墨出しをし、はつり部を決めます。

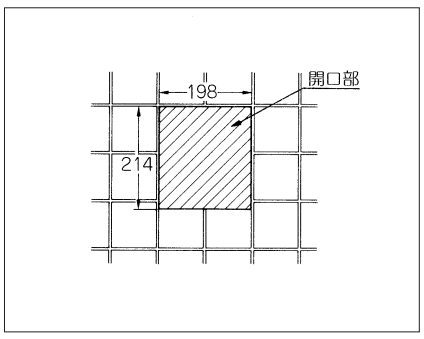
(2)下地壁のはつり
墨出しした寸法に合わせて下地壁をはつります。奥行は仕上面より95㎜以上必要です。



[乾式タイル壁へ施工する場合]

(1)取付位置の横に埋込ボックス固定用の軽量間柱をフレームを利用し、固定します。

(2)取付位置に図のように開口部を設けます。

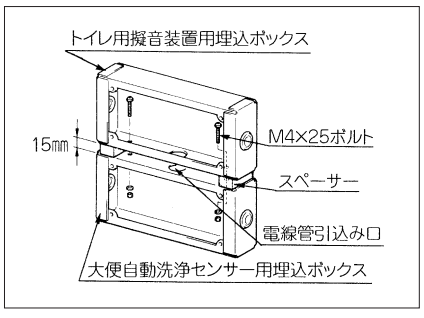


●埋込ボックスの取付け（湿式・乾式タイル壁へ施工する場合）

1. 埋込ボックスの準備

図のように電線管引込み口を向かい合わせた形で厚さ15㎜のスペーサー（現場手配）を挟んで2個の埋込ボックスを連結します。

※M4×25程度のボルトとナット（現場手配）を用意し、連結してください。



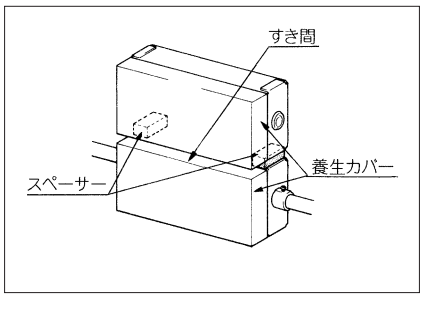
注意	●電源電線が通せるように、スペーサーで電線管引込み口をふさがないようご注意ください。

2. 養生カバーの取付けおよび下地壁の埋戻し（湿式タイル壁へ施工する場合）

(1)付属の養生カバーのはく離紙をはがして埋込ボックス開閉部に養生カバーを張り付けます。

(2)埋込ボックスの周囲をモルタルで埋め戻します。

※二つの養生カバーのすき間は埋め戻さないでください。



●電源電線と信号ケーブルの引込み

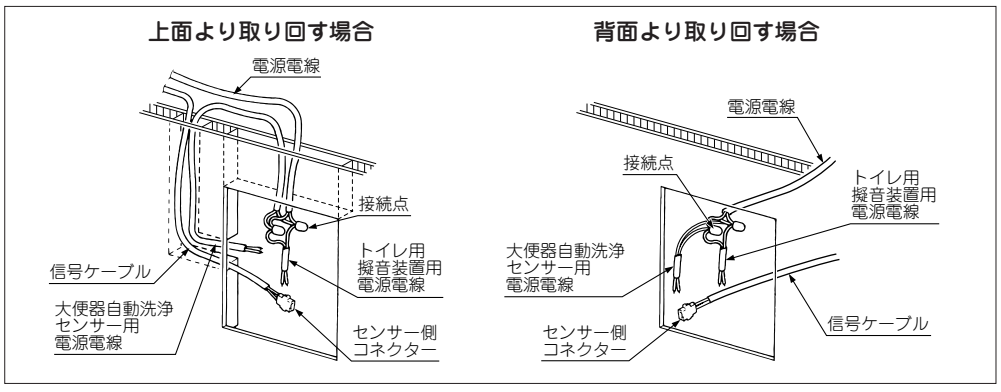
[パーティションへ施工する場合]

図のように電源電線、信号ケーブル（ゴムブッシュのついていない方）を引き込みます。

このとき電源電線は、トイレ用擬音装置用と大便器自動洗浄センサー用に分岐します。

※接続点は自己融着テープにて絶縁処理を行ってください。

注意	●電源電線は被覆の損傷のないことを確認してください。 ●開口部内に、他の配線（電源電線等）が通っている場合は、配線被覆に損傷がないことを確認してください。



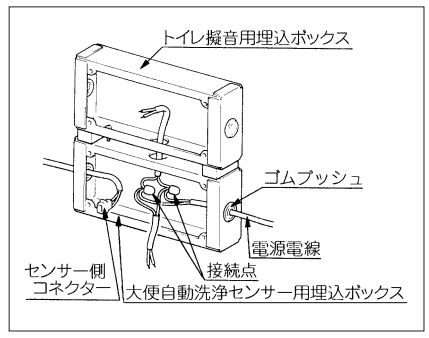
[湿式・乾式タイル壁へ施工する場合]

(1)電源電線と信号ケーブルのセンサー側コネクター（ゴムブッシュの付いていない方）を埋込ボックスの中へ引き込みます。

※引き込む時は、付属のゴムブッシュに穴をあけて引き込んでください。

(2)図のように電源電線をトイレ用擬音装置用と大便自動洗浄センサー用に分岐します。

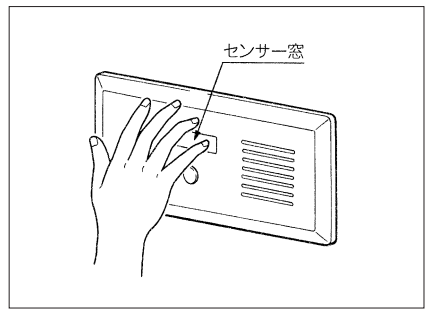
※接続点は自己融着テープにて絶縁処理を行ってください。



●施工後の確認

●動作確認

電源を入れセンサー窓に手をかざし、流水音が発生することを確認してください。

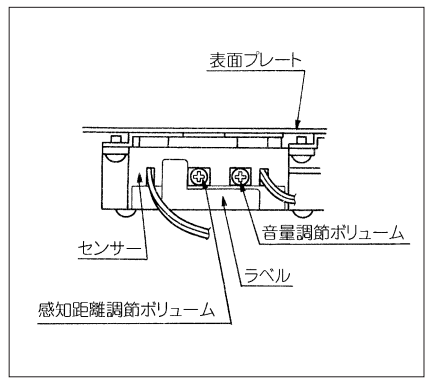


●音量・感知距離調節（必要な場合）

表面プレートを吸盤で外し、センサー下面のボリュームを小形のプラスドライバーで調節してください。

● 音量の調節
音量調節ボリュームを右に回すと音が大きくなり、左に回すと小さくなります。

● 感知距離の調節
感知距離は工場であらかじめ約50㎜に調節して出荷しています。
感知距離調節ボリュームを右に回すと感知距離が長くなり、左に回すと短くなります。（約40～100㎜の範囲で調節可能です。）



注意	●左に回しすぎると感知しなくなる恐れがありますので注意してください。

注意	●ラベルで覆っているボリュームは工場出荷時の調節用です。 絶対に触れないでください。